

問題（美術学科日本画専攻，美術学科油絵専攻，美術学科彫刻専攻 100点）  
（デザイン工芸学科 200点）

<出題の意図>

ポスターは，内から起こる衝動で創作するファインアートとは異なり，創作意図の基点は社会側にある。つまり，社会の様々な課題を視覚的コミュニケーションで解決する事で，その役割を果たそうというものである。

「ヒロシマ・アピールズ」は，公益社団法人日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）が毎年，「ヒロシマの心」をテーマとして日本を代表するグラフィックデザイナーにポスターの制作を依頼している。「ヒロシマ・アピールズ」は，言葉を超えて国内外に平和を訴える事業として，1983年の亀倉雄策の作品から毎年行われている。

この『夏の陽のまぶしさ』の作者は，平和の希求をどのように伝えたかったのか，また，見た者はどのようにメッセージを受け止めるのか。

受験者には，この作品の画材や描画法，構図ではなく，本学芸術学部のアドミッション・ポリシーに挙げられている知識・思考力をもとに，このビジュアルの本質である

「HIROSHIMA」をどのように解釈し表現するかを問う。このことは，本学の建学の基本理念にも沿うことにもなると思われるからである。